

2026 JAPAN FID NATIONAL TEAM Training Match



日時		2 0 2 6 年 9 月 1 1 日 1 5 : 0 0							試合形式			45分×2+15分				
会場		さくらスタジアム							ピッチ状態			天然芝				
日本代表						4	2	1set	2	5	矢板中央高校					
							2	2set	3							
							0	3set	0							
警告・退場		3set	2set	1set	チーム合計				1set	2set	3set	警告・退場				
		5	9	6	20	シュート			15	5	8	2				
		2	4	3	9	GK			11	3	6	2				
		1	1	1	3	CK			8	3	5	0				
		0	2	2	4	直接FK			5	2	2	1				
		0	1	2	3	間接FK			5	3	1	1				
		0	1	2	3	(オフサイド)			5	3	1	1				
		0	0	0	0	PK			0	0	0	0				



【得点経過】

◆前半（45分）

15分[日本] 横井
21分[矢板中央]
35分[矢板中央]
41分[日本] 越智

◆後半（45分）

10分[日本] 下鶴
17分[日本] 下鶴
25分[矢板中央]
31分[矢板中央]
44分[矢板中央]

◆+15分

なし

【交代】

◆前半（45分）

34分[日本] IN 奥田 ⇔ OUT 幾島

◆後半（45分）

0分[矢板中央] IN NO.47 ⇔ OUT NO.74
0分[矢板中央] IN NO.73 ⇔ OUT NO.17
0分[矢板中央] IN NO.35 ⇔ OUT NO.6
0分[矢板中央] IN NO.57 ⇔ OUT NO.21
0分[矢板中央] IN NO.48 ⇔ OUT NO.59
0分[矢板中央] IN NO.19 ⇔ OUT NO.94
0分[矢板中央] IN NO.32 ⇔ OUT NO.55
28分[矢板中央] IN NO.21 ⇔ OUT NO.64
30分[日本] IN 梅村 ⇔ OUT 越智
33分[日本] IN 徳村 ⇔ OUT 藤田
33分[矢板中央] IN NO.59 ⇔ OUT NO.44

◆+15分

0分[矢板中央] IN NO.94 ⇔ OUT NO.84
0分[日本] IN 越智 ⇔ OUT 下鶴
0分[日本] IN 大久保 ⇔ OUT 大野
0分[日本] IN 小才 ⇔ OUT 佐藤
0分[日本] IN 結城 ⇔ OUT 吉川

ゲームコンセプト

「全員攻撃/全員守備、良い守備から攻撃へ、90分 total の戦い」

◆攻撃コンセプト

- ・中央突破(2人はDF間突破+3人コンビネーション)
- ・サイド崩し(ソロ)(コンビネーション)(ニアゾーン)
→ニア・プルバック・ファー
- ・ビルドアップ
→少ないタッチ+パススピード(サイドチェンジ・意図的な緩急)+サポート

◆守備コンセプト

- ・1vs1で絶対に負けない
- ・前線、中盤の守備、ゴール前の守備(PAに入らない・2ブロックコントロール)
- ・クロス対応(同一視・人をつかまえる・ボールに寄せる・GKと連携)
- ・プレスバック

◆切り替え

- ・【守→攻】カウンター、1タッチパス、直線(逆サイド)に飛び出す、インターセプトパス
- ・【攻→守】状況に応じ「ゴールを守る」が優先

ゲーム内容

日本は前半立ち上がり早々にCKを獲得したが、惜しくも合わせることができず、得点には至らなかった。その後も、右サイドから幾島がクロスを上げ、大久保が折り返すと、下鶴がゴール右隅に流し込んだが、大久保がオフサイドの判定を受け、ノーゴールとなった。前半15分、センターサークル中央でセカンドボールを拾った大久保が、ワンタッチで越智へパスをつなぎ、越智がドリブルで前進した後、再び大久保へパスをつなぎ、大久保が突破を図ったところでファールを受ける。このFKを横井が冷静にゴール左隅へ決め、先制点を挙げた。しかし、その6分後の前半21分、相手センターバックからGKとDFラインの間へロングパスを出される。タイミングよく抜け出した相手選手がGKとの1対1となり、ループシュートを決められ、1対1の同点とされた。その後も一進一退の攻防が続いたが、前半35分、ハーフウェイライン付近から相手がGKとDFラインの間へ浮き球のパスを出す。抜け出してボールを受けた相手選手が、ワンタッチで横に走り込んだ味方へパスをつなぎ、そのままワンタッチでゴールに流し込まれた。2失点目を許し、1対2と逆転された。しかし、その6分後の前半41分、相手のクリアボールを自陣センターサークル付近で拾った横井が、ワンタッチで相手DFの背後へ浮き球のパスを送る。これに反応した越智が抜け出し、飛び出してきたGKをかわしてゴールに流し込み、2対2の同点とした。

後半に入り、55分、ハーフウェイライン付近から奥田が、ライン間へダイアゴナルランで走り込んだ下鶴へスルーパスを送る。下鶴は相手GKの飛び出しを確認しながら、冷静に左足でゴールへ流し込み、3対2と逆転に成功した。さらに62分、相手のパスをカットした越智から下鶴へパスをつなぎ、下鶴からのパスをペナルティエリア中央付近で受けた奥田がワンタッチシュートを放つ。GKがキャッチできずにこぼれたボールに反応した下鶴が押し込み、4対2とリードを広げた。しかし、70分、CKからニアサイドでヘディングシュートを決められ、4対3とされる。さらに76分、再びCKからファーサイドでヘディングシュートを決められ、4対4の同点に追いつかれた。そして89分、カウンターから左サイドを突破され、失点。4対5と逆転を許し、そのまま試合終了となった。後半は一時、4対2とリードしたものの、終盤にかけて運動量が低下し、集中力を欠く場面も見られた。その結果、後半20分以降に3失点を許し、逆転負けを喫する形となった。